



『82年生まれ、キム・ジョン』
筑摩書房 一五〇〇円＋税
キム・ナムジュ 著 斎藤真理子 訳



韓国で二〇〇万部を超えるベストセラー。二〇一八年末日本語訳が出版されたが、書店で買い求めた時には平積みで何列にも並んでいた。これだけ知られている小説を小誌が、紹介を旨とする小欄が取り上げる必要などないようにも思われる。しかし著者の提起はさらに多くの一人一人に届けられる必要がある。

表題通り、キム・ジョンは一九八二年生まれ、ソウルの産婦人科で、身長五〇

センチ、体重二・九キロで生まれた。出生当時、父は公務員、母は主婦。彼女は数えて三四歳の秋に体調を崩す。一人娘は同じ団地の家庭型保育。育児うつのようなこともあるが、突然彼女に家族の歴史が憑依する。精神科の医師のカウンセリングの記録の形をとって、彼女の女性としての生育史・人生譜が小説に描かれる。

家族と女性の歴史が

炊き上がったばかりのご飯は父、弟、祖母の順に配膳され、形がちゃんとしている豆腐は弟の口に入り、姉妹にはかけらになつてしまふ。母は男の子が生まれる前に女の子を身ごもつたが中絶した。自然界では男の子が少しだけ余計に生まれる。育ちにくいので天の配剤である。しかし、韓国で九〇年、男児の出生率が一六・五となり人口バランスを極端に崩してしまつた。

学校でも会社でも。結婚してからさえも。社会の暴力が男性を通じて女性に襲

いかかる。凶暴に、あるいはソフトに。キム・ジョンは自分の不調で当たり前の世界を切り裂いてみせる。しかし、解決も結論も示されない。カウンセリングを行った男性精神科医も処方を示すことができず、かえって自分も混乱してしまふ。問題は投げ出されたままなのだ。一緒に考えようというのだけが小説の伝えるメッセージだ。

考えよう

書評子にもこの小説を「読もう」としか訴える手がない。考えよう。そうすれば、女性であること、何々であることが理不尽に脅かされている現実を次々と気づかされることになる。

人目を引く装丁だ。装画も装丁も女性を担当している。本書に共感して描かれていることは確かだが、中心がキム・ジョンの心の「闇」のように見えるのには少し違和感を感じる。

評者 菅原敏夫 本誌編集委員

グラビア	地域を支える人 本田卓也さん 泉 聖也さん・北海道平取町	1
発掘！地域の希望のタネ	北海道中標津町 〈町全体を宿に見立てたushiyado〉	5
給食のじかん	〈長寿あえ〉広島県尾道市 高垣浩子	6
書評	キム・ナムジュ 著 『82年生まれ、キム・ジョン』 菅原敏夫	8
焦点	3・11 から八年を迎えた気仙沼市 鈴木由佳理	10
	一東日本大震災後の職員メンタルケアへの取り組み	

特集 選挙と民意を結びつけるために

	市民が主役の政治を取り戻すために 片木 淳	18
	一日本の選挙制度の抜本的改革	
座談会	若手組合員から見た政治と選挙 長久保望+望月みく+菅沼野乃香+黒川 滋+高橋玉美+藤森久次	26
	ネット選挙解禁：何が変わったのか、変わらなかったのか 岡本哲和	36
	投票率アップをめざした取り組み 市川 翔	44
	一福岡県古賀市選挙管理委員会	
	自治体職員の選挙運動 一八王子市職の取り組みから 笹川勝宏	49
地域の声を届けたい 各県自治研活動レポート	●地域から人権を守る運動を 岸まきこ	54
記録 土佐自治研	住民に寄り添う組合員を支える研究所とともに 一福岡県本部 島添幹子	56
	特別分科会 犠牲者ゼロの防災まちづくり 防災が災害にも強いまちをつくる	
	第1分科会 自由は土佐の自治研より	
	第3分科会 どうする?どうなる?これからの自治体	58
	第10分科会 新地域支援事業とコミュニティの課題	
	第12分科会 新しい公共のあり方 「住民協働」理想と現実	
連載	『月刊自治研』を読む〈第四季〉③ 自治とボランティア 篠田 徹	68
	自治研センターの機関誌案内	75
	次号予告・編集部から	76